



【AADC-0264 (Breast)】 Trastuzumab Deruxtecan (エンハーツ点滴治療)

この治療目的は QOL を保ちながらの延命です。無理をさせる治療ではありません。

★臨床試験からの報告では間質性肺疾患にて死亡例が 100 人中 2.2 人の割合で死亡例が報告されています

次
治
療

■スケジュール 3週を1サイクル 化学療法歴のある HER2 陽性の手術不能又は再発乳癌への投与

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
注																							

・Dey1 に 病院でエンハーツ点滴治療を初回は支持療法含め 100 分程度、2 回目からは 40 分程度で実施します。

■副作用情報 (エンハーツ適正使用ガイド : U201 試験で 10%以上の発現割合を示したもの)

	全 Grade	Grade3 以上		全 Grade	Grade3 以上
悪心	77.2	7.6	咳嗽	17.4	0.0
疲労	59.8	6.5	腹痛	16.8	1.1
脱毛症	47.8	0.5	口内炎	14.1	1.1
嘔吐	45.1	3.8	上気道感染	13.6	0.0
便秘	34.2	0.5	呼吸困難	13.0	1.1
好中球数減少	31.0	17.4	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加	12.5	1.1
食欲減退	28.8	1.6	リンパ球数減少	12.5	5.4
下痢	26.6	1.6	鼻出血	12.0	0.0
貧血	26.1	6.5	消化不良	12.0	0.0
白血球数減少	19.6	4.9	眼乾燥	10.9	0.5
頭痛	19.0	0.0	低カリウム血症	10.3	3.3
血小板数減少	17.4	3.3			

数値は発現割合%です

■支持療法 : 抗がん剤治療による有害事象に対応する 基本的な処方 です。

患者さまの常用薬、状態に応じて変更する場合がございますので、ご承知おきください。

点滴 翌日 から 飲むお薬 点滴当日は 相澤病院で点滴 にて制吐剤と ステロイド剤を 投与しています	デカドロン錠(4) 1日2回 朝と昼 食後 1回1錠	吐き気止めとして処方されています 点滴翌日から 2日間 飲みます。屋に飲む理由は、 16時以降に飲むと不眠になる可能性があるからです。
	ファモチジン OD 錠 (20) 1日2回 朝と夕食後 1回1錠	デカドロン錠による胃腸障害を予防するのと 抗がん剤によるムカムカ症状を緩和します。 点滴翌日から 2日間 飲みます。

■指導のポイント

●この治療で最も注意を払っているのが間質性肺疾患です (臨床試験で死亡例がでています)。

患者さんの自覚症状が早期発見に繋がりますので、保険薬局においても自覚症状のモニタリングとお声がけをお願いいたします。下記が3大特徴ですが **3つの症状が揃わなくても 気になることがあれば必ず、病院へ相談するようお伝え下さい**してください。

- 咳 (痰のでない空咳がよくでる)
- 37.5 度以上の発熱が続く
- ちょっとした動作で息切れする息苦しくなる



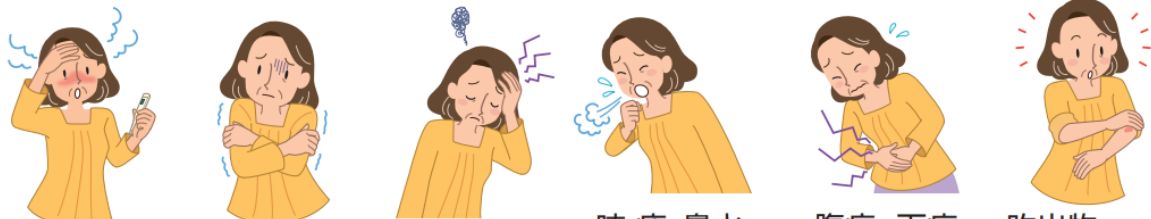
●骨髄抑制による、好中球減少、貧血、血小板減少

・好中球減少

現在エンハーツ販売の製薬会社ホームページで閲覧可能なエンハーツの資料には、好中球減少時期について記載はありませんが多くの抗がん剤は、抗がん剤投与後7~14日目あたりに一番好中球が下がる時期とされています。特に好中球が下がる時期に発熱を伴う場合は緊急の対応が必要となります。

(U201試験では100人中1.6人の割合でこの状態)

下記のような症状の場合ただの風邪と思わず注意するよう、お声がけください。



・貧血

発熱

悪寒(さむけ)

頭痛

咳・痰、鼻水、
のどの痛み

腹痛、下痢、
吐き気

吹出物、
皮膚のはれ

自覚症状としては、疲れやすさ、だるさ、頭痛、めまいなど。鏡に向かってアツカンベーした際、下瞼の後ろが白いというのも貧血の目安になるかと思えます。

・血小板減少

血が止まりにくくなるというのが、有害事象としては問題です。血便、血尿が続く場合は病院に連絡しましょう。傷などして出血した場合出血部位を強めに圧迫してみて5~10分しても止まらないようであれば 病院連絡事項となります。

●悪心嘔吐

・この治療は中等度催吐性リスクに分類されると想定して当院では対応しています。

支持療法は点滴翌朝悪心がなくてもきちんと服用するようお伝えください。催吐リスクの高い患者さまには、オランザピンを処方することがあります。

・食欲がないときのアドバイスとしては、無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べることで、揚げ物・煮物・煮魚や焼き魚などは避けることで、嘔気を軽減することもあるようです。また料理は冷やしたり、冷まして食べることで、あたたかいものより、においが軽減し食べやすくなることがあります。

●倦怠感

・怠さについては2日間の支持療法服用後(デカドール錠)にひどくなる場合もあり、その際は70%投与期間の延長も可能です。ただ、倦怠感というのは様々な有害事象の現れでもありますので、生活に支障を来すような倦怠感が継続する場合は病院に相談するようにお伝えください。

●脱毛(発現率:47.8%) **ただし、前治療で脱毛経験のある患者もいることをご承知おきください。**

・脱毛については、髪の毛だけではなく全身の体毛において起きる可能性があります。点滴開始2~3週間後に発現する方が多いです。治療が終わると1~2ヶ月で再生がはじまり、3~6ヶ月で、ほとんど回復しますが、髪質が変化することもあるようです。

●口内炎

・口内炎には、薬の粘膜に対する直接的な障害と、薬による骨髄機能の抑制(骨髄抑制)に伴う局所感染によって生じる二次性障害の2つがあります。抗がん剤の投与後、およそ5日目から10日目ごろに口内炎が発生しやすくなります。骨髄の機能が低下時期に口内炎がかさなると、口内炎によって傷ができたところに細菌などが侵入して感染しやすくなります。

●排便コントロール不良

・エンハーツは、便秘下痢の両症状が報告されていますので、便通の状態もお伺いいただけますとよいかと思えます。下痢の際は、電解質含有の水分摂取を心掛けていただくこともアドバイスポイントです。

<最後に>

エンハーツで治療される方は、QOL重視しての延命が目的となります。エンハーツは、継続にかかわる重篤な副作用がでない場合は、治療を継続していくお薬なので 対処薬でカバーできることは随時対応していけるとよいと思うので保険薬局で気づかれた有害事象については、お電話やトレーシングレポートにて情報提供いただけるととても助かります。